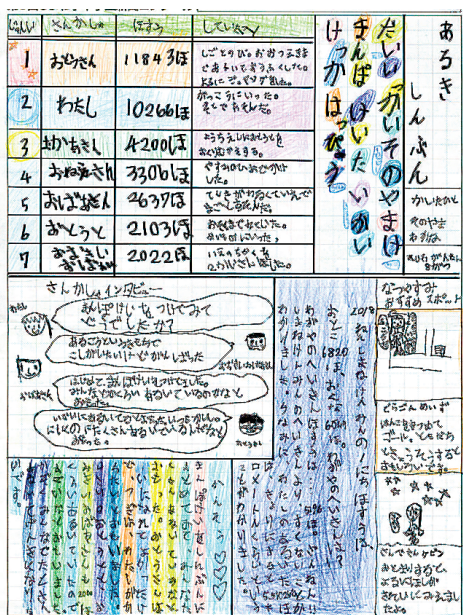


第8回しまね小中学生新聞コンクール
各部門の最優秀作品

小学1年生の部

「あるきしんぶん」

園山和奏さん(出雲市立大津小学校)



小学2年生の部

「なかよし新聞」

松本悠夢君(松江市立本庄小学校)



これまでの優秀作品は山陰中央新報社のホームページで見ることができます。

審査委員長メッセージ



有馬毅一郎先生

(島根県NIE推進協議会会長、
島根大名誉教授)

次回は16日掲載です。

伝えたいことは何だろう

記者(左)とやりとりしながら原稿をチェックする手銭淳デスク(松江市殿町、山陰中央新報社)



テーマを決めよう

◆今日の講師

編集局政経部

手銭 淳デスク(44)



1998年入社。記者として本社報道部、浜田市の西部本社報道部、江津支局などで勤務。2019年春から本社のデスクに。

「メニュー」決め内容整理

普段は編集局政経部(政治や経済を取材する部)のデスクに指示を出したり記者が書いた記事

をします(図参照)。テーマを決めた後、どんな記事を書くか、何を伝えたいのかを分らない。そんなときは、集めた資料やノートを見返し、見たことや聞いたこと、調べたことを書き出してみます。頭が整理され、自分が作る新聞の「メニュー」ができてくるといいます。

さらに週1度、「総合メモ」を作る仕事もしています。総合メモは、翌日の新聞に載せる記事を一覧にした「メニュー」です。世の中では日々いろいろなことが起きています。毎日、記者がたくさんの記事を送ってきます。その中でも特に、読者に伝えたいニュースは何か、読者が知りたいことは何だろう、と考えながら「メニュー」を作ります。

この総合メモを基に編集局(取材部門)、編成局(紙面制作部門)のデスクが集まって編集会議を開き、みんなで意見を出し合って翌日の新聞に載せる記事を最終決定しています。新聞の役割は「情報を人に伝えること」。みなさんが新聞を作る

意見を出し合う

とき、まずは自分が作る新聞のテーマ、何を伝えるかを決めよう。興味や家族のことなど、関心のあることを新聞にする人

いれば、学校での調べ学習や体験学習の成果をまとめる人もいます。取り上げるテーマが決まったら、そのことについて①他の人にも知ってほしいと思うこと②自分の心が動いたこと③記事に

読む人の立場に

新聞作りは決して簡単なことではありません。取材記事を書くこと、レイアウトなどたくさんある作業があります。読む人のことを考えて載せる記事を選び、見せる工夫をしたりする必要があります。

でも、新聞作りを通して、「自分」はこんなことを考えていたのか」と新発見があるはず。友達の新聞を読んで、いろいろな考え方をすることもできるでしょう。頑張ってください。

「自分らしさ」を表現して

さあ、新聞作りを始めましょう。初めて挑戦する人もいますね。すでにテーマを決めて動き始めている人もいるでしょう。学級や全校みんなで取り組む学校も例年たくさんあります。夏から秋にかけての貴重な活動の一つとして、工夫しながら楽しんで作ってみてください。あなたが作る新聞は、大人

が読んでいる新聞と少し違うところがあります。あなたの考え、あなたの思いを込めて、あなたが手作りした、たった一枚、世界で一つ(一部)しかない新聞です。あなたが自分で発行した「自分らしい」新聞なのです。あなたが強く興味を持ったこと、人に伝えたいことを大切にしましょう。豆記者として、よく見て、聞いて、

調べて、体験しましょう。たった一部の新聞作りですが、たくさんの経験と学習を含んでいます。紙面は広いので、工夫も頑張る必要があります。有意義で貴重な時間を過ごすことでしょ。出来上がった新聞の中に、きっと自分の一歩前進が浮き出ているに違いありません。楽しい、充実した記憶の記録になりますように。

テーマ(編集方針)を決めよう



何を取り上げる? どんな内容の新聞にする? 学校や地域、友達の間で何が話題になっている? 今、自分が気になっていることは何? 読む人に何を伝えたい?

記事になるのはどんなこと?

- ①ほかの人に知ってほしい、知らせたいと思うこと
「これは知ってほしい!」「みんなに教えたい!」
- ②自分が「喜怒哀楽」を感じたこと
「うれしい」「何でこんなことが起きるの?」「このニュースを知って悲しくなった」「こんなに楽しいことは初めて!」

自分の心が動いたことを記事にして人に伝えよう

主催:山陰中央新報社

第9回しまね小中学生新聞コンクール

作品募集中!

応募締め切り

12月4日(金)
新聞社必着■対象
島根県内の小学生と中学生

■応募規定

- 専用の応募用紙を使った個人の作品
- テーマは自由。一人2作品まで応募可
- 用紙はタテに使い、内容は枠の中におさめる
- 文字は手書き(手書きが難しい人はパソコン使用可)
- 人の文章や写真を勝手に自分の作品に使わない。本や新聞、インターネットの文章を引用する時は「」をつけて示すなど、自分の文章と区別して、出典(出どころ)となった本や新聞の名前、掲載日を入れる。写真は撮影者などに許可を得る

■審査と賞

- 学校の先生や新聞記者による審査会を12月~来年1月に3回実施
- 学年ごとに最優秀賞(1)、優秀賞(1)、優良賞(1)、入選(17)、佳作(30)の計50点、「学校賞」(小中学校各5校程度)を贈る
- 副賞は最優秀賞(図書カード3万円)、優秀賞(同2万円)、優良賞(同1万円)、入選(同1,000円)、学校賞(同1万円)。応募者全員に参加賞
- 上位3賞の入賞者、学校賞は来年1月下旬に山陰中央新報の紙面で発表
- 入選、佳作受賞者は来年3月に山陰中央新報に掲載予定の特集紙面で発表
- 作品は審査終了後、随時返却します(入選以上は来年3月から開催予定の作品展終了後)

●応募作品の著作権は山陰中央新報社に属し、山陰中央新報紙やホームページに掲載するほか、優秀作品は県内で開催する作品展で展示します●応募の意にいたした個人情報はコンクール運営にのみ使用し、第三者への提供はしません

■応募方法

●児童・生徒のみなさんは学校に提出

●学校は提出された作品をまとめて、新聞社へ応募



■先生方へ~新聞社への応募の手順

- ①作品を学年ごとにまとめる
 - ②山陰中央新報社「しまね小中学生新聞コンクール」のホームページから各学年用の「エントリーシート」(応募者名簿)をダウンロードし、学校名、応募者名、作品番号を記入
 - ③各学年の作品の束に、プリントアウトしたエントリーシートを添え、新聞社へ提出(郵送、持ち込みなど)。エントリーシートのデータを新聞社にメールで送る
- 問い合わせ・作品の送り先
- 住所/〒690-8668 松江市殿町383山陰中央新報社「しまね小中学生新聞コンクール」事務局
 - 電話/0852(32)3414※平日9:30~17:30 ●ファクス/0852(32)3520
 - メールアドレス/shochu@sanin-chuo.co.jp

伝えるって
おもしろい!日ごろ考えていることや
気になること。学校の授業で調べたこと、
体験したこと。

なぜ新聞にするのでしょうか?

新聞は、自分が感じたことを
ほかの人に知ってもらい、伝えるために作ります。
どうやったら伝わるかな、楽しく読んでもらえるかな。
読む人のことを考えて、記事を書いてみよう。
見出しやレイアウトを工夫してみよう。
思いが伝わるって、うれしいよ。